学生のレポート・論文作成における生成 AI 利用ガイドライン

１．目的

本ガイドラインは、学生の皆さんがレポートおよび論文を作成する際に、生成 AI（以下「AI」）を適切かつ倫理的に利用できるようにすることを目的としています。本ガイドラインによって、レポート・論文作成における学修過程の質を確保し、不正行為を防止する必要があります。なぜなら、レポート・論文の内容に関する最終的な責任は、学生の皆さん自身が負うからです。

また、AI は学修を支援するための補助的ツールであり、学生の皆さんに代わって思考したり文章を書いたりする存在ではありません。そこで、本学は文部科学省が示す方向性に基づいて、「九州ルーテル学院大学における生成 AI（人工知能）利用ガイドライン」のもと、「学生のレポート・論文作成における生成 AI 利用ガイドライン」として以下のようなレポート・論文作成における許容・制限・注意事項を定めました。

２．許容される AI の利用

※ただし、授業やレポートの目的等に応じて、以下に示した利用が許容されるか否かは変わる可能性があります

2-1. 課題理解およびアイデア創出の補助

テーマに関する基礎的な情報を AI で整理する

視点を広げるための論点を AI に提示してもらう

AI を使って問題意識や発想を広げるためのアイデア出しを行う

2-2. 文章構成・アウトライン作成の補助

レポート全体の構成案を AI で検討する

書き始める前の整理作業を AI を使って行う

2-3. 文献内容の理解補助

AI で専門的な文章を要約したり平易な説明に改めたりする

難しい箇所の理解を深めるために補助的説明を AI に行ってもらう

2-4. 自身が作成した文章の確認

誤字脱字を確認する

不自然な表現や論理の飛躍を確認する

AI から改善のヒントを得る

３．禁止される AI の利用

3-1. AI が生成した文章の無断使用

AI が作成した文章を、自分の文章としてそのまま提出することは禁止です。これは剽窃に該当します。

3-2. レポートの丸投げ

テーマだけを入力し、レポート全体または一部を AI に作成させることは禁止です。不正行為であり、自身の学びになりません。

3-3. 出典の虚偽記載

AI が提示した文献情報を、実在確認せずに引用することは禁止です。実在しない文献の記載や、出典が不明確な情報の引用も認められません。

3-4. 教員が禁止した場合の利用

科目担当教員が教育目的や学修への影響を考慮して AI の利用を制限する場合にはその指示に従う必要があります。 シラバスや授業内の指示に従ってください。

４. 利用に際して遵守すべき事項

4-1. 出力内容の確認の徹底

AI は誤った情報（ハルシネーション）を生成する場合があります。内容の真偽は、必ず書籍、論文、信頼できる情報源を用いて確認してください。

4-2. 個人情報や機密情報の入力禁止

氏名や学籍番号、ゼミのメンバーの情報、公表前の研究データなどの入力は、情報漏洩の観点から禁止です。

4-3. AI 利用の透明性

教員が求めた場合、以下に示すような AI 利用に関する情報を具体的に提示できるようにしてください。提出方法や形式は授業担当教員の指示に従ってください。

・AI を利用した箇所

・利用目的

・使用した AI ツール名

・使用したプロンプトや生成履歴

4-4. 迷ったときは

利用して良いか迷ったら、授業担当教員に相談してください。